

平成27年度 産業廃棄物税基金充当事業 実績報告書

事業名：解体木材の再利用に関する研究事業（石巻工）
 事業実施期間：平成27年度
 担当課室名：高校教育課
 担当班名 キャリア教育班 TEL： 3625
 e-mail ko-kogyo@pref.miyagi.jp

1 事業の目的

解体木材の減量化や再利用の方法を、各関係団体や地域企業からの支援と大学等との連携により実践的に研究活動することで、循環型社会の形成に寄与できる人材の育成を目指す。

2 当該年度の実施事業の概要・実績

- 救急エコ物置製作：材料に解体木材を利用し、手刻み加工によって在来軸組工法で物置を製作(3 畳)した。完成後、地域の幼稚園に寄贈した。
- 解体木材の強度試験：解体木材の再利用の有効性について、東北職業能力大学校と連携して曲げ強度試験を行った。解体木材でも未使用甲種構造材の基準強度以上の強度が得られたことから、十分に再利用が可能であることが検証できた。
- 設備機器製作：環境に配慮し緊急時に電気供給もできる住宅設備として、太陽光発電と風力発電・蓄電システムを製作した。設置場所や季節などの各種の環境条件に対応できるように移動式とし、発電した電気を蓄電して効率的に利用できるものとした。
- 循環型社会の形成に関する課題解決型学習
 解体工事業協同組合、東北職業能力大学校、東北芸術工科大学、NPO 法人匠の右腕など各種団体と連携し、専門的講師としての指導を受けながら設計・製作工程を通じた実践的学習を通し、地球環境に配慮した将来の産業活動に関与できる人材の育成に努めた。(全27回)

3 当該年度の実施事業の成果

- 材料に解体木材を利用し、救急エコ物置製作したことで、解体木材のリユースの検証ができた。
- 製作した作品を寄贈したことで、ものづくりの果たす役割を理解し、地域社会への貢献が図られた。
- 解体木材でも基準強度以上の強度があることを学習し、解体木材の有効な活用方法を検討できた。
- 住宅設備機器として、太陽光発電と風力発電、蓄電システムを製作することで、省エネルギーで環境に配慮し、緊急時に電気供給もできる住宅設備の計画と設置について実践的に学ぶことができた。
- 循環型社会の形成に関する課題解決型の学習として、現場見学と専門技術者を講師として実践的な学習を通し、将来の地球環境に配慮した産業活動に関与できる人材の育成が図られた。
- 事業を通して地域の各種団体や企業との連携・協力体制が構築できた。

4 今後の展開

- 事業を通し、地域の各種団体や企業と構築した連携・協力体制を活用して、専門的技術指導の講師確保と、解体材料の提供や各種現場見学・実習場所等を確保するために、今後も学校と地域連携・協力体制を維持していくことで継続的な人材育成を推進する。
- 解体木造住宅からの解体木材の継続的な確保が必要であり、再利用可能な材料としてストックし、新築・改築材料として供給するリユース材木店の設置に向け関係機関との検討を進める。

5 廃棄物の削減・リサイクル、適正処理の促進の効果等を示す指標の数値

(指標：関連授業時数)

単位：時間

平成26年度	平成27年度			
	149			

6 事業費の推移

単位：千円

平成27年度				
2,932				